

# 常なる磐

つねなる いわ seasonⅡ

令和3年6月4日(金)

その3

## ◇ 校内ミニ作品展 ～多目的スペースにて～

本校校舎の特徴の一つに「多目的スペース」がある。昭和62年の移転新築当時は、愛知県の補助を受けた全三河で唯一の施設であり、その後の利用状況が高い評価を得て、県内の小規模校新設・改築時に同様の施設を備えたと聞く。

現在は密を避けるため、広く対応はしていないが、憩い空間のほか、集会や委員会、発表会、学習など、様々な場面で利用できる使い勝手のよい空間である。

コロナ禍においても、授業で制作した作品の展示スペースとして利用している。教室の展示となると他学年に紹介はできないが、この場所ならば可能だ。

作品を並べて「タイトル」と「制作者名」を添えてやれば、ちょっとした【校内ミニ作品展】となる。

先週末より、1階多目的スペースで開催中の【校内ミニ作品展】は1年生。



左から作品タイトルが「とらっく」「ひこうき」「きりん」。しっかり認識できる。制作している様子も覗いたが、写真等の資料を見ながら作っているのではない。自分の記憶を頼りに頭でイメージし、各自が家から持ってきた「菓子箱」「空き缶」「カップ」「ペットボトルキャップ」等を試行錯誤して組み合わせながら、完成形を考えて制作していく。

「トラック」は形のバランスがいい。車輪の位置も絶妙で、今にも走り出しそう。「ひこうき」は機首が上がり、翼が斜め下方向に取り付けられている。すごい。「きりん」は、何ととっても首。斜め方向に前に倒している。加工に工夫あり。

想像力と創造力を高める素晴らしい図画工作の授業だと思ったら、大間違い。これらの作品は、算数の「いろいろなかたち」の授業で制作している。図形認識と組み合わせである。この認識が、算数学習の基盤となり、学びの下地となる。



「それにしても、1年生はなかなか創造力に長けている。素晴らしい」と思っていると、教室の方から小気味のよいリズムの音楽が聞こえてきた。

音楽のリズムに合わせて、思い思いの動きでダンスである。

「音楽か？ ともすると体育か？」  
正解は音楽の授業。音楽も得意だ。

小規模校ならではの音楽。

児童が1学級に35人もいたら、密の相乗。教室は大変なことになっている。

3年生の教室の前には、長机が設置された。図画工作の作品が制作中のようで、多目的スペースに展示する前の仮設置場所のようだ。



作品名は【袋の中には何が?】。

紙袋の中に「自分の世界」を作っていくものである。

家から持ってきた材料を組み合わせ、自分の想像力と創造力を働かせて、目的とする世界を作り上げるという題材である。

正確さが要求されるのではなく、発想力を高める授業が図画工作なのである。



上段と中段作品はまとまりがあり、かわいらしい。丁寧さが作品から伝わってくる。驚いたのは下段作品だ。

袋の開口部は「生物の口」だろう。袋の上部に取り付けられた紙コップには糸が括りつけられている。

そう。「アンコウ」である。網は複雑な口の形状を表すのか。よく考えられている。



子供の作品は、見るだけでワクワクするのだ。